

水の文化 排水は 廃水か



- 鳥越皓之「排水は困った存在だ」
- 栗田 彰「江戸から東京へ 流れる排水の歴史」
- 泉 桂子「溜める水と使う水」
- 中山幹康「上下流紛争の裏にある排水と利用の構造」
- 鬼頭秀一「排除することと使いこなすこと」
- 真勢 徹「灌漑排水の効率化が必要だ」
- 水の文化楽習実践取材「小学生は、水をどのように学んでいるのか」
- 編集部「捨て去ることが、排水か」
- 古賀邦雄 水の文化書誌「下水道」

水の文化 November 2004 No. **18**

水の文化
2004
18



ミツカン水の文化センター

表紙上：東京都小平市ふれあい下水道館では、地下25mの下水道に直接会うことができる。
 時間当たりの降雨量50mmの集中豪雨に備えて、小川幹線は4.5mの内径と90cmの厚さを持つ。
 表紙下：同じ人工物なのに、コンクリート製のU字溝と木樋では、流れる水の趣が異なって感じられる。
 裏表紙上：水浄化の象徴として、処理水の中で生き生きと泳ぐ魚たち。
 裏表紙下右：昨今、人気の無洗米。糠（ぬか）で糠を「研いで」精米するので、さっと「洗えばいい」というのが本当の意味。
 正しくは「無研」米だ。それを「無洗」と呼んでは、ビントがずれる。そもそも「研ぐ」のは、米の表面についた糠。
 排水を汚染するのは、この糠だ。無研米は糠が取り除かれているために、排水をクリーンにするのに一役買っている。
 裏表紙下左：卵型の下水道（現在も残る神田下水）と土管。地中での安定、上からの圧力、水量低下時の流速に対応する断面など、
 この形状には優れた技術特性が盛り込まれている。技術が進めば進むほど、いかに用いるかが問われなければならない。

